



宮崎 徹 (MIYAZAKI Toru)

東京大学大学院医学系研究科 教授
疾患生命工学センター分子病態医科学部門

東京大学医学部医学科卒業。

東京大学医学部附属病院内科にて研修、学位取得後、パスツール大学（フランス・ストラスブール）研究員、バーゼル免疫学研究所（スイス・バーゼル）主任独立研究員、テキサス大学サウスウエスタンメディカルセンター（アメリカ・ダラス）准教授を歴任し、2006年より現職。

長期にわたる海外での研究において、T リンパ球の発生分化、抗原のプロセッシングとその提示におけるメカニズム、NK 細胞の腫瘍認識機構、自己免疫性糖尿病における MHC (HLA) 分子の関与等、免疫学において数々の新しい発見を行い、その成果は、*Nature*, *Cell*, *Science*, *Journal of Experimental Medicine*, *EMBO Journal*, *Proceedings of National Academy of Science USA* 等の一流雑誌に論文として発表された。また、米国 NIH、Juvenile Diabetes Foundation、American Liver foundation などからの研究費の受給や海外での多くの受賞歴を持つ。

同時に、AIM (apoptosis inhibitor of macrophage) 遺伝子を発見しその機能解析を続けた結果、AIM が脂肪を分解する機能を持ち、それがメタボリックシンドローム・生活習慣病の発症・増悪の鍵となることを明らかにし、*Cell Metabolism* 誌等に最近論文として発表した。現在は、生活習慣病のみならず、現代社会で増え続ける、癌、腎不全、神経変性疾患などの様々な現代病における AIM の関与をさらに研究すると共に、AIM による創薬研究を開始し、これらの病気に対する新規で根本的な治療法の開発を目指している。